

(別紙)

調査等事項報告（団体名：市政・公明クラブ）

視察（要望）先	三重県桑名郡木曾岬町
視察（要望）日時	令和 5 年 7 月 26 日（水） 14:30 ～ 16:00
視察（要望）項目	ICT/IoT 先進事業 地域 BWA を活用した安全・安心まちづくり
視察（要望）者	秋葉新一、海老名幸司、矢萩浩次（3名）
内 容	<p>木曾岬町は、海拔 0 m の低地で起伏がなく平坦、自称「ティアドロップ」形状は長辺 8 km 短辺 4 km のコンパクトな町で両サイドを川に挟まれた所謂中洲、雨水は外部からの流入はなく、降雨水処理は海拔 0 m 故にポンプによる機械排水が完備されている。懸案は津波や高潮などの外海川からの津波であるが、全町民が収容可能な緊急避難所を整備している。</p> <p>防災に限らず、多方面から町民が安心安全に暮らすことが出来るまちづくりの在り方として、町全体を電波エリアとすることで、幅広く多目的に且つ町民に平等公平な住民サービスが可能となることから、地域 BWA（Broadband Wireless Access）に着目、令和元年に「地域 BWA を活用した安全・安心なまちづくり事業」を実施、先進的な通信技術分野からの多様なサービス展開による、安全・安心なまちづくりの推進に取り組む。また、地域 BWA は町全体を電波エリアとする為に 4 基の基地局で実現し、全域にセンサーや防犯カメラを設置している。</p> <p>地域 BWA による安全・安心まちづくりは「防災」「防犯」「公共交通」「子育て」などで実施しており、特に「子どもみまもりサービス」は「ビーコン」というセンサーを全ての児童や認知症の方に支給し、町内での見守りを実現、また、特筆すべき年間利用者 14 万人を誇る自主運行バスの運行状況通知サービスでは、CATV やメール配信、スマホアプリにより状況確認が可能な他、バス車内も公衆 WiFi の利用が可能である。他にも、防犯カメラを設置することによる防犯対策は、町への主要連絡道路が 13 カ所だけと言った地域特性により高い効果を発揮、「機械排水のまち」は幹線排水路の水位が上昇した時には、前述同様のサービスにより水位状況確認が可能である。</p> <p>市民サービスへの拡充や、町民・企業との更なる連携は、今後の展開・発展に大いに期待されるものと実感すると共に、次世代の安心安全なまちづくりのかたちのひとつであろう。</p>

(別紙)

調査等事項報告 (団体名：市政・公明クラブ)

視察 (要望) 先	三重県多気郡明和町
視察 (要望) 日時	令和 5 年 7 月 27 日 (木) 10:00 ~ 11:30
視察 (要望) 項目	デジタル推進計画、デジタル地域通貨「美村 PAY」について 観光施策と観光 (関係) 人口への取組みについて
視察 (要望) 者	秋葉新一、海老名幸司、矢萩浩次 (3 名)
内 容	<p>本市と同規模の人口は、40 年後 36% 八千人減少予測に行政サービス継続には DX の推進が必須であるとの思いから「明和町デジタル推進計画」を町 6 総の個別計画と位置付ける。</p> <p>方針は「サービスデザイン思考に基づく住民サービス」と「効率的な行政運営」この二つを掲げ施策・取組みを展開している。</p> <p>組織は「明和町デジタル推進本部」と「明和町 DX 推進委員会 (チーム DX)」を設置、特にこのチーム DX は外部人材と各課から 1 名選出された委員で構成されており、全庁的横断的な委員会は各課との検討・調整・連絡に持って来いと思われる。これは首長の強い思いがあつてのこのようであるが、個人の格差を解消するため「デジタルデバインド」対策も講じつつ、職員の意識改革も含めスキルアップが課題ととらえ、効率的な研修の在り方を模索しているなど、デジタル推進体制がうまく構築されている。</p> <p>三重広域モデル事業である明和町他 4 町のひとつのデジタルフィールドとしてブランド化された「美村」。この地域経済の活性化・好循環、更には地域コミュニティをも目指すデジタル地域通貨「美村 PAY」は 4 町共通キャッシュレス決済機能で、明和町他 3 町との連携と課題をクリアし今年 1 月スタート、4 町の事情により決済金額は違うものの多くの町民に利用されており、今後の展開と地域経済への効果が大いに期待できるものであると思われる。</p> <p>日本遺産「祈る皇女斎王のみやこ 斎宮」をもち、伊勢神宮の入り口と言った歴史と地理的優位を大いに感じる明和町の観光振興方針「持続可能な地域づくり」は「おもてなし」「来てもらう」産官学連携の環境づくり。史跡斎宮跡や魅力的な観光資源・空き家の活用のほか、漫画でスタンプラリー「日本遺産ガイドアプリ」「インスタグラム」「ART 歌舞伎」「プロジェクションマッピング」などデジタルとの融合、更に「アバター」「メタバース」「二次元キャラ」などバーチャルとも融合させ、地域基準・国際基準で推進する「観光」視点からの「持続可能な地域づくり」を実現してくれるものと強く感じた。</p>

